

行政機能ごとのフロアイメージ

【生涯学習機能】

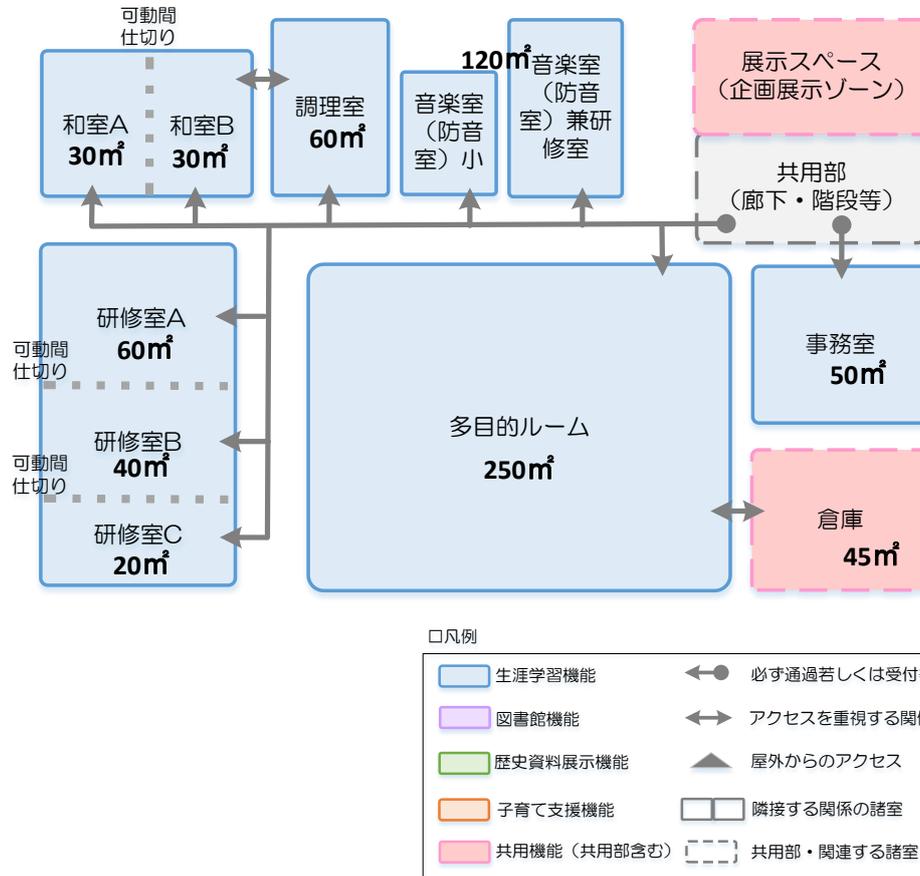


図 1 生涯学習機能のフロアイメージ

<諸室配置の考え方>

- ・ 研修室 A～C は、可動間仕切りにより 3 部屋を一体的に使用できるようにする。
- ・ 和室 A・B は可動間仕切りにより 2 部屋を一体的に使用できるようにする。
- ・ 和室 A・B と調理室は直接的なアクセスが取れるよう近接もしくは隣接する。
- ・ 多目的ルームでは、生涯学習活動のほか、他機能の利用も想定するため、倉庫を近接する。
- ・ 事務室は、生涯学習機能のほか歴史資料展示機能の担当職員も利用できるようにする。
- ・ 事務室では複合施設全体の総合受付等を行うため、1 階への配置が望ましい。
- ・ 展示スペース（企画展示ゾーン）では、生涯学習展示の他、歴史資料の企画展等にも活用する。

【図書館機能】

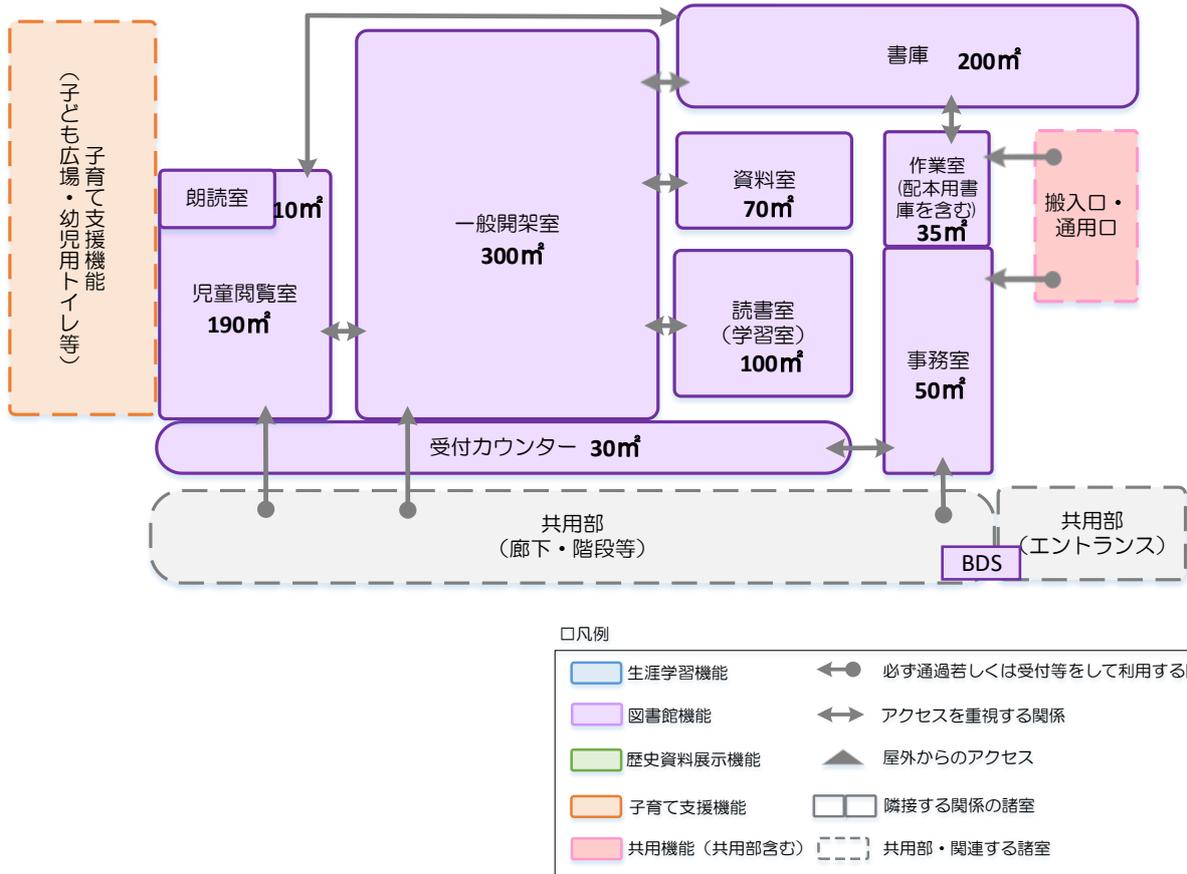


図 2 図書館機能のフロアイメージ

＜諸室配置の考え方＞

- ・施設全体において図書の持ち出しを可能とするため、BDS（ブックディテクションシステム）の設置はエントランス付近とする。
- ・一般開架室は複数階に分かれてもよい（ただし、親子連れが利用しやすいよう児童閲覧室と同一階には子育て関連図書等を配架する）。
- ・児童閲覧室は子育て支援機能の子ども広場等（キッズコーナー、ゆったりスペース、ハイハイコーナー）や幼児用トイレ・授乳室等が利用しやすいよう隣接する。
- ・作業室には配本用書架を整備し、搬入口への直接的なアクセスを確保する。

【子育て支援機能】

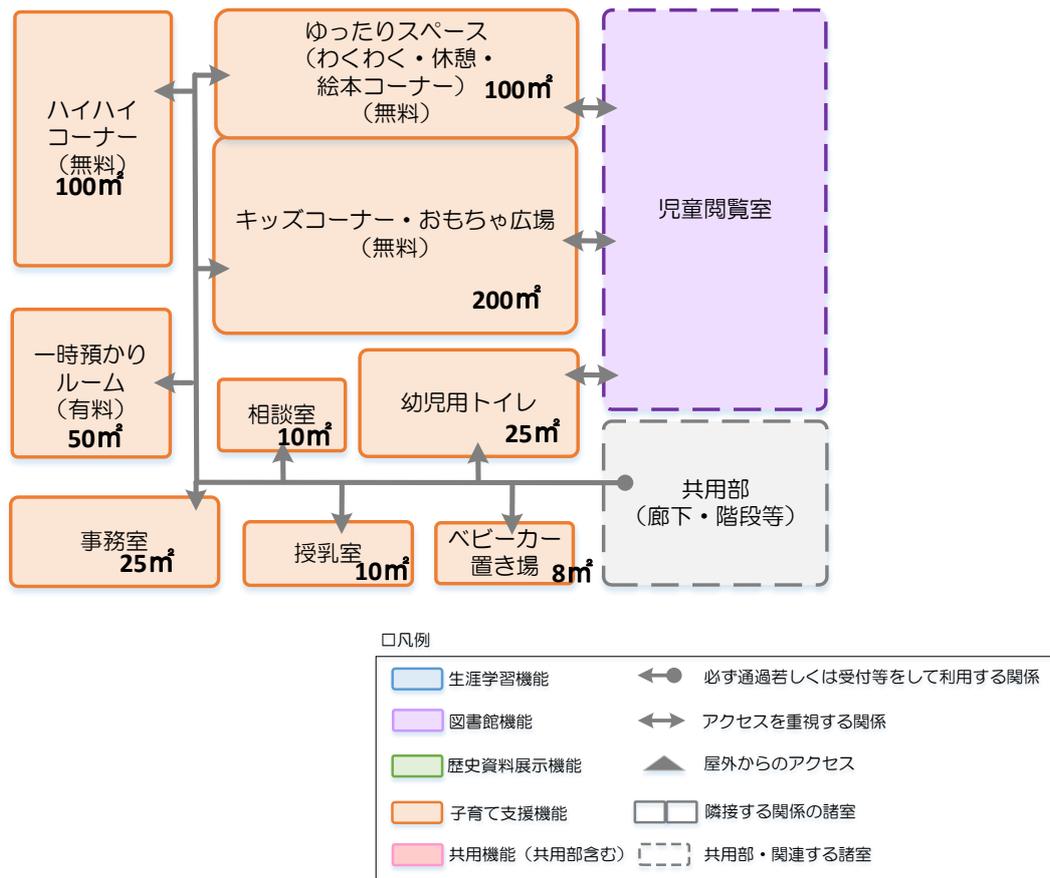
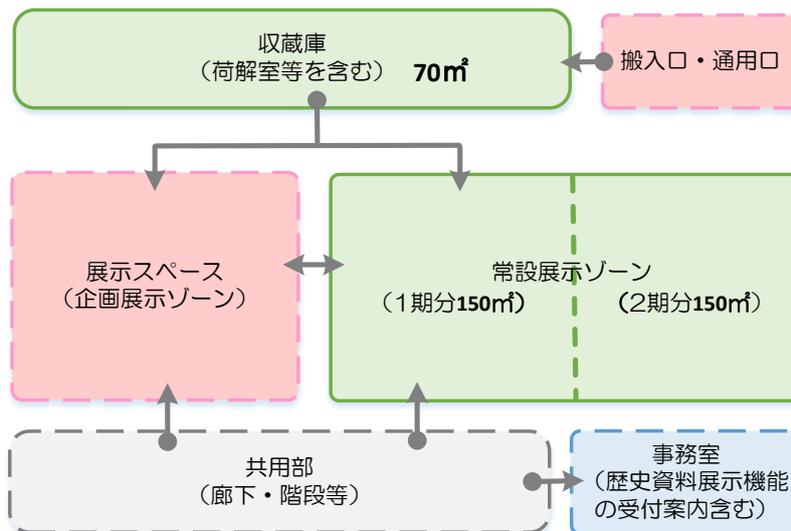


図 3 子育て支援機能のフロアイメージ

＜諸室配置の考え方＞

- ・年齢に応じて活動スペースを区分した子ども広場等（ハイハイコーナー（3歳未満）、キッズコーナー（3歳以上）、ゆったりスペース（3歳以上））を整備する。
- ・幼児用トイレ、授乳室、ベビーカー置き場は子育て支援機能利用者以外の親子連れも利用できるよう、共用部からもアクセス可能とする。
- ・図書館機能の児童閲覧室利用者が子ども広場等や幼児用トイレに自由に行き来できるような施設配置とする。

【歴史資料展示機能】



□凡例

 生涯学習機能	$\leftarrow \bullet$ 必ず通過若しくは受付等をして利用する関係
 図書館機能	\longleftrightarrow アクセスを重視する関係
 歴史資料展示機能	\blacktriangle 屋外からのアクセス
 子育て支援機能	 隣接する関係の諸室
 共用機能 (共用部含む)	 共用部・関連する諸室

図 4 歴史資料展示機能のフロアイメージ

＜諸室配置の考え方＞

- ・歴史資料展示機能では、搬入口から収蔵庫（荷解き室等を含む）、常設展示ゾーンや展示スペース（企画展示ゾーン）への直接的な動線を確保することが望ましい。
- ・生涯学習機能の事務室（歴史資料展示機能の職員を含む）では、歴史資料展示機能の受付案内業務を行う。

【共有ゾーン】

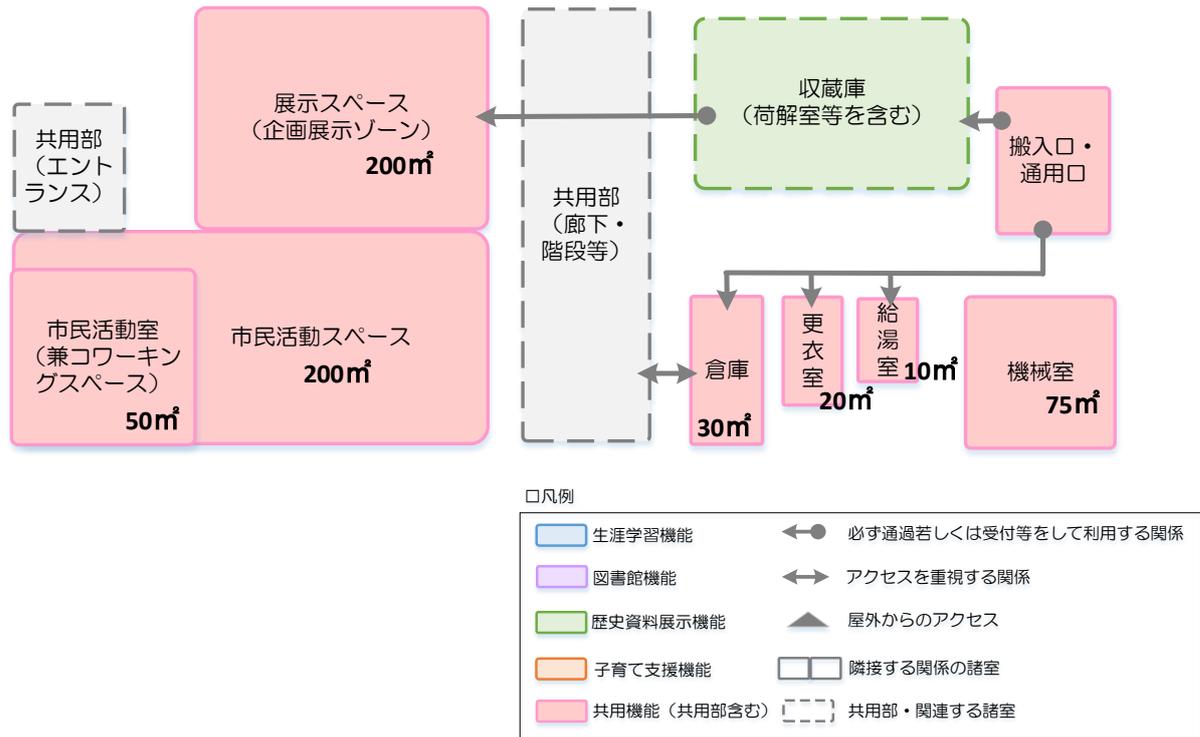


図 5 共有ゾーンのフロアイメージ

＜諸室配置の考え方＞

- ・市民活動スペースは共有ゾーンとして、エントランスやロビーとしての機能を有したスペースとするため、エントランス付近の配置が望ましい。
- ・展示スペース（企画展示ゾーン）では、生涯学習展示の他、歴史資料の企画展等にも活用するが、展示期間以外において、市民活動スペースと一体的に中規模程度のイベント開催等の利用を想定するため、市民活動スペースとの隣接が望ましい。
- ・展示スペース（企画展示ゾーン）は、収蔵庫（荷解室等を含む）からアクセスしやすい配置とする。